

現況		《Check》
現状の状態、問題点、課題等《事業前》	具体的な対策、解決の方向性《事業後》	
<p>【資源回収団体登録数及び資源回収量】</p> <p>町内会で活動される方の高齢化や事業の多様化により積極的に資源回収に取り組む時間が割けないなどの要因により、登録団体数及び資源回収量が減少しているのが現状となっている。</p>	<p>広報のほりべつ、登別市ホームページ及び町内会回覧等により、本奨励金制度を分かりやすく周知することで、資源の有効利用に対する市民の意識高揚やごみの減量化を図ることができる。また、幅広い年齢層による回収団体を誘致することにより、資源回収量の増加を見込むことができる。</p>	

担当グループによる事務事業評価の内容（複数回答可）			《Check》
1. 事務事業の妥当性について			
市が事業主体として実施していくべき妥当性の高い事業ですか？	市が主体に行うべき事業である	判断理由及びその他所見	登録団体による資源回収により、再生可能な資源ごみがリサイクルされ、ごみの減量効果に繋がっていることから、本事業は妥当であると判断する。
	民間(事業者、市民団体等)でも実施可能である		
	国、道、他団体等との連携や広域化が可能である		
	国、道、民間等の事業と重複・類似している		
2. 事務事業の必要性について			
市民ニーズの状況等から勘案して、必要性の高い事業ですか？	市民、団体等から具体的な要望がある	判断理由及びその他所見	資源回収量については、ピーク時と比較して減少傾向にあるが、登録団体数は大きく変動しておらず、資源の有効活用に対する市民の意識は未だ高いと考えられる。
	市民アンケートの結果から必要性が高い		
	社会情勢、地域事情等から必要性が高い		
	市民の大部分が関連することから必要性が高い		
3. 事務事業の効率性について			
事業内容とコスト(事業費)のバランスがよい効率性の高い事業ですか？	低予算、少労力で高い効果をあげている	判断理由及びその他所見	本奨励金は、回収量に応じて支給していることから、事業費の減額（キロあたり3円支給）は、登録団体の意欲低下を招く恐れがある。
	市で実施するほうが民間委託より効率性が高い		
	多額の経費や労力を要するがやむを得ない		
	将来的に効率性を向上できる		
4. 事務事業の成果について			
目的を達成するための成果はあがっていますか？	成果指標の向上が見られる	判断理由及びその他所見	登録団体である町内会で活動する方の高齢化や事業の多様化により、積極的に資源回収に取り組む時間が割けないなどの要因により、登録団体数や回収量が減少している。
	市民、団体等の声から成果を感じられる		
	目に見える形で成果があがっている		
	成果の把握は困難である		

担当グループによる評価			《Check》
維持	左記の評価を選択した具体的な理由（根拠）	本事業の実施により、資源のリサイクル推進と市民へのリサイクル意識の向上が図られる。	

行政評価会議による評価			《Check》
維持	備考		